



〒028-6193  
岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2  
TEL 0195 (23) 2191  
FAX 0195 (23) 2834  
URL <http://www.ninohe-hp.net/>  
編集発行  
岩手県立二戸病院 図書広報委員会



## 医師の働き方改革？

理事 鈴木 彰

平成 31 年 4 月 30 日、天皇陛下の退位、5 月 1 日には新天皇陛下の即位が行われ、令和と改元されました。昭和生まれの私は、これで 3 つの元号を過ごすこととなります。

私は医師になり 45 年、県立病院勤務は他の病院も合わせ 30 年を超え、二戸病院は福岡病院時代を含め 3 回赴任しており、トータル 27 年、その中でも 3 回目の今回は 25 年となります。その間、病院を取り巻く環境も変化し、県立病院でも無床化、診療所化等の変化を余儀なくされました。この根底には常に医師不足が大きな要因としていると思います。

医師となるためには、一般的に大学の医学部で 6 年間教育を受け、国家試験に合格すれば法的には医師として認められます。しかし、まだまだ経験不足で、昔は大学で、進みたい分野の医師の集団である医局に所属し、そこで経験を積み重ねながら一人前の医師となりました。病院の医師は病院からの依頼で大学の医局から派遣される場合、自治医大の卒業後義務年限のため就職し引き続き勤務したり、まったくフリーの医師を雇う場合等がありますが、地域医療はかなりの部分、大学の医局からの派遣で成り立ってきました。平成 16 年 4 月より臨床研修医制度が導入され、新たな医師は 2 年間、専門ではなく医学全般の研修を義務づけられ、研修場所は大学だけでなく、基準を満たした一般の病院で可能となり、大学の医局に入る医師は激減しました。大学は診療・研究・教育と多岐にわたる分野をこなす必要があり、やはり医師を確保しなければならず、そのため現場から医師を引き上げざるをえず、病院では今まであった科が無くなったり、ひいては病院がやっていけなくなり、閉院するところもありました。

研修医制度導入以前から医師不足の解消に向け様々なことが成されてきましたが、決定的な解決策がなく、岩手県が日本で一番医師が少ないという発表があり、さらに働き方改革だという事で時間外労働の短縮までも求められてきています。現場の医師は昔に比べ、医療レベル、医療技術、医療機器の発達に伴い、安全、確実、効率よく業務をこなすことを求められており、より多くの人手を必要とする中、様々なことに神経を使い、外来・病棟・救急対応において目いっぱい働かざるを得ない状況です。働き方改革を本当に実現するならば、十分な人手を確保し、医師一人当たりの業務負担を軽減し、余裕をもって働ける環境を実現する必要があります。国は医師の偏在を解消するような方策を打ち出すとっておりますが、途中経過で分かった方法はあまり効果的とは思えず、期待できません。結局、現在はお金で解決する時間外手当を厳密に払う方向に行っています。決して業務負担が軽くなるとは思えない状況です。

病院を利用する皆さんや地域住民の皆さんには是非その事を理解していただき、温かい目で見守っていただきたいと思います。住民の方々の理解により、医師があつた病院なら行っても良い、行きたいと思う、そのような病院になれば医師が集まる要因になると思われます。

# 高濃度乳房 知っていますか？

【診療放射線技術科】

最近、テレビや新聞で乳がんについて特集されることが多くなりました。そんな中、ある医療系テレビドラマで「マンモグラフィで見えない乳がん」がとりあげられ話題となりました。今回はその理由である「高濃度乳房」について説明します。

**高濃度乳房（デンスブレスト）とは乳房内の乳腺が多く、脂肪が少ない乳房のことをいいます。** 検診などで行われるマンモグラフィ検査では、乳房の中の乳腺組織が白く、脂肪組織が黒く写りますが、乳がんなどの病変も白く写るため、高濃度乳房の場合病変が乳腺の陰に隠れて見つかりにくいと考えられています。

一般的に、加齢とともに乳腺は減少し、年齢が高いほど高濃度乳房の割合が減りますが、40歳以上の日本人の約4割は高濃度乳房と推測されています。

（以下、厚生労働省健康局がん・疾病対策課 資料 I より抜粋）



Q. 高濃度乳房であったらどうしたらいい？

A. 高濃度乳房であったからといって、追加検査など、特別な対応が必要になるわけではありません。

Q. 高濃度乳房では超音波検査が良いときいたが、検診では行わないのか？

A. 乳がん検診でマンモグラフィに加えて超音波検査を行うことによって死亡率がさがるといった科学的根拠や受診者の不利益についてはまだ研究段階です。

Q. 高濃度乳房の場合、マンモグラフィではがんが見つからないの？

A. 高濃度乳房の場合であってもマンモグラフィでがんを全く発見できないわけではありません。高濃度乳房の場合他の乳房の構成（脂肪性乳房等）に比べるとがんがあってもマンモグラフィで発見されない割合が高くなります。

早期発見のため日頃から乳房の状態をセルフチェックしましょう。

定期的に乳がん検診を受けましょう。

異常を感じたら受診を！

# 臨床工学技士の歩み

## 臨床工学技術科

臨床工学技士は、1987年に制定された比較的新しい医療従事者の資格となります。この資格を取得するには、定められた学校を卒業し、国家試験に合格する必要があります。この資格を取得する者は全国で43550名（2018年度末）となっています。

現在、岩手県には約200名の臨床工学技士がいますが、このうち岩手県立病院には、現在53名の臨床工学技士が採用され、各県立病院で勤務しており、二戸病院には旧福岡病院時代の平成15年に初めて配属されて以降、現在では3名の臨床工学技士が勤務しています。

臨床工学技士とは臨床工学技士法を抜粋すると、「医師の指示のもと生命維持管理装置の操作及び保守点検を業務とし、以って医療の普及及び向上に寄与することを目的とする」と記載されています。日々医療の進歩はめまぐるしく、様々な医療機器が最新の医療を支えており、我々臨床工学技士が適正に管理することが重要な役割と感じています。

では、具体的にはどのような仕事をしているのでしょうか。医療機器管理業務・透析業務・心血管カテーテル室業務・呼吸治療業務・ペースメーカー関連業務・集中治療業務・人工心肺業務など多岐に渡る業務に従事し、医療機器の操作や保守点検を通し医療に貢献しています。

また、令和元年5月18日、19日の2日間、第29回日本臨床工学会が岩手県盛岡市のアイーナ及びマリオスで開催されました。学会のテーマは「医療の変革と共に進化する臨床工学技士～専門性に特化するスペシャリストの育成～」で、全国各地から概算ではありますが約2900名の参加者が来場し、盛況の後終了となりました。

今後も、臨床工学技士としての使命を全うし、地域医療の貢献に務めたいと思っています。



# 地域医療福祉連携室について

## 地域医療福祉連携室

「地域」や「連携」は昨今の医療や福祉の現場でのキーワードになっています。そのキーワードが二つも入った「地域医療福祉連携室」についてご紹介します。

地域医療福祉連携室は「自院と他院・他施設をつなぐ窓口」です。患者さんによりよい医療を提供しスムーズに退院・転院することができるよう、医療機関・介護施設をはじめ、行政や福祉に関わる多くの施設をつなぐ役割を担っている部門です。看護師、ソーシャルワーカー、歯科衛生士、事務職等様々な職種で構成されています。

患者紹介：他の医療機関からの患者紹介に関する業務や、地域の医療機関・介護施設等との調整などの業務を行います。

退院支援：患者さんの入院から退院、その後の療養に関して、患者さんやご家族の同意を得ながら安心して退院することができるよう支援しています。

医療相談：病気になるとそれに伴い様々な心配事が起きてきます。患者さんやご家族の療養上、生活上の心配事、不安などの後相談に応じ、解決のお手伝いをします。

医科歯科連携：二戸歯科医師会と協力し、患者さんの口腔機能の維持管理を行っています。

地域医療福祉連携室スタッフ一同、二戸地域やその住民によりよい暮らしを提供していけるよう努めていきます。



二戸病院広報「ざしきわらし」第25号（平成31年6月17日発行）

編集発行：岩手県立二戸病院 図書広報委員会

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191 ・ FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>